



# JACET通信

社団法人大学英語教育学会

December 2010 The Japan Association of College English Teachers

No.177

## 目次

巻頭言（神保尚武）	1頁	研究会紹介（ライティング指導研究会）	6頁
他学会からの寄稿（日本教育心理学会）	2頁	本部だより	7頁
特色ある大学英語教育プログラム （北九州市立大学）	4頁	社員総会報告	8頁
私の授業紹介（水野邦太郎）	5頁	支部だより	14頁
		第50回記念国際大会のお知らせ	19頁

### [巻頭言]

## 英語教員の資質能力の向上策

社団法人大学英語教育学会会長 神保 尚武  
早稲田大学

2010年度の活動は順調に推移している。英語教育学大系の刊行も予定通りに進んでいる。公益法人に関する新法制定後のJACETは一般社団化の方向で、来年度以降申請するべく議論している。来年度の国際大会も着々と準備が進行している。

では、「英語教員の資質能力の向上策」について述べる。

日本教育新聞（2010年6月7日）で「教員の資質向上、18～60歳で」という見出しの記事が掲載された。川端文科相が6月3日付けで「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策」について中央教育審議会に諮問した。中教審は特別部会を新設し、具体的改革案を検討することとなった。部会は大学での教職課程、教員採用、現職研修の3段階を通し、資質向上策を探っ

ている。次の3点が諮問されている。

- ①教職生活の各段階で求められる専門性の基礎となる資質能力を着実に身に付けられるような新たな教員養成・教員免許制度の在り方について
- ②新たな教員養成の在り方を踏まえ、教職生活の全体を通じて教員の資質能力の向上を保障するしくみの構築について
- ③教育委員会や大学をはじめとする関係機関や地域社会との組織的・継続的な連携・協同のしくみづくりについて

この動きはJACET教育問題研究会（以下、教研研）が主張してきたことに合致している。久村/神保は『英語教育』（第57巻第4号、2008:13）で以下のように提案している。

教員全般の資質能力は、免許更新制導入との絡みで、基準化はさけられないだろう。同時に「英語教師に求められる力」も基準化の方向に向かうだろう。更新の認定は、一定の基準をクリアしていることの証明であり、それによって教員の質が確保され、保障されることになるはずだからである。これは国、教育委員会、認定大学の説明責任 (accountability) に通じるものである。

この方向は教師の成長という視点に立脚した教師教育改革の可能性が出てきたと言えよう。久村は『英語教育』(第58巻第12号、2010:11)で的確にこのことを指摘している。

はじめから指導力を備えている教員などいない。経験と研修を重ねながら教師は成長するものである。教員研修を「訓練」や「指導」という上からの視点で考えている限り、訓練を避けたり、指導を嫌ったりする教員が出てくる。今後は、「教師の成長」という観点から、教員教育のパラダイムを再構築していく必要がある。

中教審が上記の諮問事項に対して明快かつ有効な答申を出されることを期待している。そして他教科の教員よりも研修に恵まれてきた中等英語教員のさらなる成長を願う。

大学英語教員も研究だけでなくFDなどを通して常に授業改善に取り組むことが大切である。JACETの多様な研究会や春季・夏季セミナーなどは大いに研究と教育の連動を促すものとなっていると思う。各研究会の活動に関しては来年の国際記念大会ポスターセッションで発表していただく予定である。

教師の成長は、学問としての教育研究と実践としての教育研究の両面からのアプローチが必要である。我が国におけるこれまでの教育研究で不幸だったのは、上記両面間に大きな溝があり、大学レベルでの教員評価において、前者が優先されて後者は評価の対象として軽んじられてきたことである。最近では改善されつつあるが、両面の相互交流がもっと促進されなければならない。

更に、英語教育関係学会のみならず、他言語学会との交流も必要である。教問研は本年の8月

20日に早稲田大学で「CEFRの日本への文脈化を考える」という英独仏合同シンポジウムを開催した。日本独文学会ドイツ語教育部会と日本フランス語教育学会との共催であった。講師陣と演題は次の通りであった。

Dr. Newby (University of Graz) : Contextualization of the CEFR and other Council of Europe instruments within a European Context

西山教行 (京都大学、フランス語教育学会) : 日本における「言語教育学の成立の課題と展望—『ヨーロッパ言語共通参照枠』からの発想と展開

平高史也 (慶應大学、独文学会) : 日本における『ヨーロッパ言語共通参照枠』の受容—ドイツ語教育と日本語教育を例に

久村研 (田園調布学園大学、JACET) : EPOSTLの文脈化について

100名近くの参加者があり、熱気に満ちた討論が展開された。類似のセミナーを来年3月18日に早稲田大学で開催する予定である。

教問研の活動に関してはJACETのwebsiteにリンクされておりますのでご覧ください。なお、各研究会もwebsiteを作成し、活動を公開してください。

～他学会からの寄稿～

## 「日本教育心理学会」の紹介

常任理事 南風原朝和  
(東京大学)

日本教育心理学会は、1952年に設立された日本教育心理学協会を改組して、1959年に設立された学会で、現在約7,000人の会員がいます。学会誌は年4回発行の『教育心理学研究』と年1回発行の『教育心理学年報』です。また、毎年開かれる総会(年次大会)における研究発表抄録は『日本教育心理学会総会発表論文集』として刊行されています。これらはいずれも、国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNiiで公開されています。

会員の専門分野は、「教授・学習」「測定・評価」「思考・認知」「発達」「人格」など広い範囲にわたっており、『教育心理学年報』ではこれらの部門ごとに、「最近1年間の研究動向と展望」と題するレビュー論文が掲載されます。

『教育心理学研究』は「原著論文」と「展望論文」から構成されていますが、「原著論文」はさらに「一般」と「実践研究」に分かれており、「実践研究」では、主に小学校から大学にいたる学校現場での教育実践をテーマとした論文が掲載されます。

英語学習・英語教育に関する論文も頻繁に発表されており、最近の「実践研究」のジャンルの論文には、以下のようなものがあります。

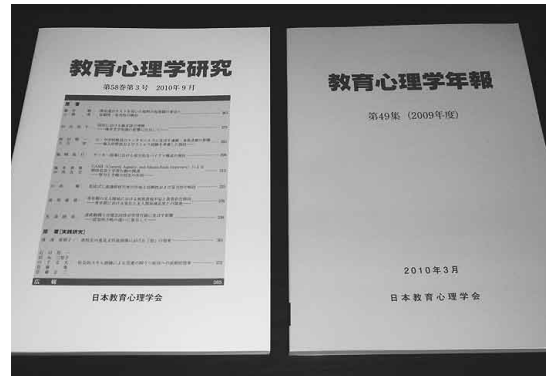
「学習者の不十分な知識を修正する教授方法に関する研究—等位接続詞andの学習をめぐる」  
「英文の主語把握の誤りとその修正—日本語「～は」による干渉」  
「学習方略の教授と学習意欲—高校生を対象にした英単語学習において」

また、「一般」のジャンルの論文にも、以下のようなものがあります。

「英単語学習方略が英語の文法・語法上のエラー生起に与える影響の検討」（2009年度学会賞受賞論文）  
「英単語学習における自覚できない学習段階の検出—長期に連続する日常の場へ実験法を展開する」  
「日本人大学生の英語学習における目標志向性と学習観および学習方略の関係のモデル化とその検討」

『教育心理学研究』や『総会発表論文集』には、このような英語学習・英語教育に直接関係する研究のほか、授業研究、教育実習、協働学習、動機づけ、学習上の援助要請、予習、教師の不安など、教授・学習に関する研究テーマが広く取り上げられています。

また、「測定・評価」という部門があることからわかるように、日本教育心理学会では伝統的に、テストや尺度の開発とその品質（妥当性・信頼性）の検証、それらのベースとなるテスト理論、さらにはテストやさまざまな尺度によって得られ



る数量的データの統計的分析に関する研究が盛んに行われています。総会時には、学会の研究委員会の企画で、このような方法論的テーマについてのセミナーも多く開かれています。最近のセミナーのテーマには、以下のようなものがあります。

「学級で研究しようとする人のための心理学研究法入門—研究デザインの視点とデータ収集上の注意」  
「知っておきたいマルチレベル分析の考え方—データの階層構造と文脈情報を活かした分析のために」  
「心理尺度作成における因子分析の利用法」  
「項目反応理論の基礎と応用—学力テストの分析を通して」

また、「教授・学習」関連では、以下のようなセミナーが開催されています。

「Active Learning: Cooperation in the Classroom」  
「教授学習過程における発話データの分析」

日本教育心理学会ではこのように、英語学習・英語教育を直接の対象とした研究や、より一般的な観点からの教授学習研究、さらにはこれらの研究を支える方法論的研究が広く行われ、総会や学会誌を通して、活発な学術的交流がなされています。大学英語教育学会の会員の方で、すでに日本教育心理学会でも会員として活躍されている方もおられますが、この機会に、より多くの方に、日本教育心理学会における研究活動に注目していただき、さらには参加していただければ幸いです。Let's collaborate!

## 特色ある 大学英語教育プログラム

北九州市立大学  
伊藤健一

### 有機的に機能する派遣留学制度

北九州市立大学外国語学部では、2007年度、大規模な改組を実施しました。その内容は、従来の外国語学科英語専攻のカリキュラムを根本から見直し、より系統性をもった英語教育を実施するとともに、英語の先にある世界を見据えてビジネス、政治、国際関係、英米文化等の応用領域を選択して履修することで、英語学習それ自体が自己目的化することを防ぐようにしました。その中でも、従来から行なわれてきた英米文学、英語学に加え、通訳教育、ビジネス英語等、より実践的な科目を増強しています。

このカリキュラムをより良く機能させる目的で、わたしたちは新しい形態の派遣留学プログラムを導入しました。現在、北九州市立大学の交換留学制度のもとで派遣される学生は、年20名弱となっています。これをさらに拡充し、ある程度まとまった人数を派遣できる制度を模索する中で生まれたのがこの制度です。

この新しい留学制度は英米学科を視野に導入したものであり、実現までの交渉においてもその側面を最優先してとりくんできましたが、現在のところ、一定の枠の中で他学部・他学科にも門戸を開放しており、現在は学内のほとんど全学部の学生を派遣しています。この制度のもと、2008年2学期より、毎年英米学科2年次の学生25名、さらに翌年1学期に3年次の学生15名（+他学科の学生15名）を、本学の姉妹校としてこれまでも密接な交流をしてきた米国ワシントン州のタコマ・コミュニティーカレッジに半年間派遣できることになりました。当地では派遣学生に特別プログラムとして、高度な英語力養成を図るコースをコアに、アメリカ文化、具体的にはアメリカ現代史、他民族国家の在りよう、ジェンダーの問題、公民権運動などのアカデミックな内容を学べるプログラムを用意してもらっています。専門科目の

授業を受講する際は、米国人学生が同じクラスに入るよう配慮し、学生間交流がスムーズに行なわれるよう配慮してもらっています。宿泊はホームステイとし、課外アクティビティなども多く用意されており、英語の中で生活しつつ文化交流ができます。全体として、このプログラムを修了した段階で、TOEFL (PBT) 550点を超えるスコアを取得できるようなプログラムとなっています。ここで取得した単位は、18単位までまとめて認定しますので、留年せずに派遣留学の成果があげられます。ただし、もちろんこのうち合格できなかった科目があった場合、その分が差し引かれるのは言うまでもありません。

プログラムに参加する人には、基本的に前々学期末に参加希望の意思表示をしてもらい、派遣前の学期には事前指導を行ないます。ビザ取得などの指導を行なうだけでなく、勉学面でも十分な事前学習を重ね、より充実した成果を上げられるよう、国際交流を推進してきたスタッフを中心にしっかりと密度の濃い事前指導を実施しています。

大学としてもこのプログラムを支援すべく、本学を不在とする期間の授業料相当額を奨学金として支給することにより、渡航費、タコマ・コミュニティーカレッジでの授業料、ホームステイの費用さえ準備できれば半年間の留学が可能な制度となっており、経済面でも魅力的な内容となっています。



北九州市立大学では、基盤教育センターで全学部の第一外国語としての英語教育を提供し、その中で全員のTOEIC（またはTOEFLでも可）の受験を義務づけています。外国語教育に定評のある本学としては、外国語学部以外の学部を含めた全体としての英語力増強が常に課題でしたが、外国語学部と文学部に別れて在籍する英語教員と非常勤講師による指導では、全体のレベルアップは困難

でした。しかし、2007年度に基盤教育センターが設置され、ここで全学的な方針を立てて取り組んだ結果、2年次修了時点で、全体の約半数がTOEIC500点をクリアするところまで来ました。

その一方、外国語学部英米学科には独自の目標が設定されていて、卒業時点で過半数の学生がTOEFL550点（またはTOEIC730点）以上のスコアに到達することを目指していて、実現に向けて努力しているところです。

この派遣留学制度の副次的な産物としては、半年間の派遣留学を終えて帰ってきた学生の中から交換留学に挑戦し、あわせて1年半の留学体験を持って卒業する学生が生まれてきたということです。高度な英語力のみならず、英語での情報収集はもちろんのこと、さまざまな情報発信までやってこなす実力を身につけています。こうした学生が、後に残る後輩たちの良い手本となってきています。



## 私の授業紹介

水野邦太郎（福岡県立大学）

### ICTを活用したチャンクのインプットとアウトプットによるフォーカス・オン・フォームの授業

学生が各自の生活風景に則して「こういう意味を英語で表現してみたい」という気持ちで英文を書き、互いに英語の「表現形式」の面白さや難しさを共有し吟味し合うFocus on Form (FonF) のライティングの授業を紹介してみたい。

### 3種類のチャンクへの意識高揚を図る

この授業では、単語一つひとつを文法の規則に従って積み上げながら英文を作る発想をとらな

い。「単語」と「文法」という二分法的な考え方だと、どうしても日本語的発想を頼りに英文が組み立てられるため、文法的にたとえ正しくても「英語らしくない (unnatural)」表現が産出されることになるからだ。それに対して、次の3種類のチャンクをなぞりながら自らの思考・感情の「かたどり」を遂行する「チャンク英借文」の発想をとる。

- ① トピック・概念別コロケーション: e.g. *explore an idea, a great idea*
- ② 頭出しチャンク: e.g. *One idea is to... / I don't like the idea of...*
- ③ 一文チャンク: e.g. *Have you got a better idea?*

これら3種類のチャンクにおける「形式－意味－機能」の三位一体の理解と使用を通して、ライティングの正確さ、流暢さを促進し、中間言語体系の再構成を図るFonFの授業を、ICTを活用して以下のようにデザインした。

### ICTを活用したFonFの授業デザイン

#### (1) チャンクのデータベースの構築

3種類のチャンクに量的にも質的にも豊富に会える外国語学習環境を創出するため、オリジナルの「英和チャンク辞典」をネット上に立ち上げた（現在、チャンク登録数は約600）。この辞典は以下の3つの辞典から構成され、興味・関心のある辞典（切り口）から自由自在にチャンクを探索（explore）することができる。①基本語チャンク辞典、②トピック・概念・機能別チャンク辞典、③英語表現文法辞典（チャンクを該当する文法項目ごとに分類整理した辞典）。

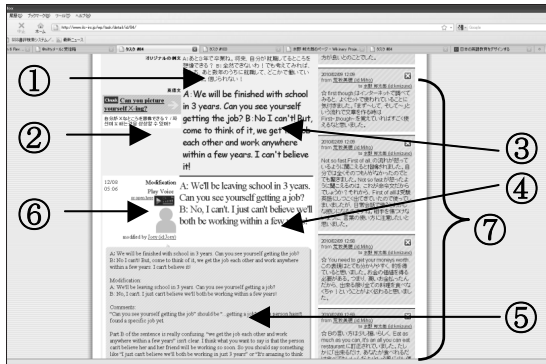
「英和チャンク辞典」の一つひとつのチャンクには、その「形式」「意味」「機能」に簡潔な説明がつけられ、チャンクの性質特徴や使い方に学習者の注意が向くよう工夫されている。また、そのチャンクが使われた模範例文を複数載せ、模範例文の中で使われているチャンクが目立つようにビジュアルに修飾を施し、インプット強化が図られている。

#### (2) Open-ended な英借文のアウトプット活動

インプットとしてのチャンクをインテイクとして取り込むためのタスクが、使ってみたいチャンク（型）をなぞり模倣しながら、自らの思考・感情の「かたどり」を遂行する「チャンク英借文」である。一人ひとりが「英和チャンク辞典」から

使ってみたいチャンクを選び、このチャンクを使って「こういう意味を英語で表現してみたい」という原文（オリジナルの例文）を、まず日本語でつくる。その後、英訳をする。

学生がつくったチャンク英借文は、「英日チャンク辞典」のデータ・ベースに投稿される。その後、本学が実施している短期語学留学プログラム先のイギリスの大学生によって、添削とコメントがつけられ投稿される。以下が、添削画面である。



- ① オリジナルの例文（日本語）
- ② チャンク/チャンクの日本語訳
- ③ チャンク英借文
- ④ ③を添削した英文
- ⑤ ④の添削に対するコメント
- ⑥ ⑤の音声ファイル（mp3）

イギリスからの添削とコメントが文字と音声で投稿されると、それを何度も読み、聞きながら、「③オリジナルの英文」と「④添削文」を比較し（認知比較）、自分が使った言語知識の「仮説検証（hypothesis testing）」を行う。チャンクの「形式—意味—機能」を適切に結びつけて例文をつくれたか、辞書から借りたチャンクは適切だったか、チャンクを規則的知識に基づいて正確に使用することができたか、そのような内省を通じた気づき、比較を通じて浮かんだ疑問、質問、辞書や文法書で調べたことを、「Noticing」という掲示板（上記の図の⑦）に書き込み、「気づき」を仲間とシェアできるようにする。

さらに、仲間が投稿した“Noticing”への書き込みを読んで「へえ〜!」と思ったら、「へえ〜ボタン」をクリックして互いに「気づき」の「感動」を共有できる仕掛けが施されている。仲間からもらった「へえ〜ボタン」の数は、“Enlightening Comments”というページに☆の数で示され、気づきと感動を多く与えている人順にランキング表示される。また、添削されたオリジナルの英文に対しても、☆をつけて評価し合い、“Shining

Stars”というページに例文が評価の高い順にランキングされる。

### 教室での Focus on Form の授業

チャンク英借文は、各自が毎週授業外に3つ作り投稿する。そして、教室では、前回投稿したオリジナルの英文と、その添削・コメントに対する“Noticing”を報告し合い、英語の表現方法の面白さや難しさを語り合う。一方、教師は、“Noticing”のBBSへの書き込みから、学生たちの中間言語を“unlearn”する（学びほぐす）上で重要だと思われるポイントをいくつか取り上げる。そして、特定の言語形式に焦点をおいたエクササイズを行う。また、日本語と英語の違いや文法知識の明示的な説明を通して言語意識を高め、一人ひとりに言語知識への内省を促し、中間言語の再構成を適宜図っていく。また、「英会話は瞬間英借文」というキャチフレーズで、添削された例文を、イギリスの学生の生の声をモデルにシャドイングをし、ペアでRead and look-upを行う。

このようなチャンクの学習を中心に据えたFonFの授業を通じて、一人ひとりの「表現の幅」「流暢さ」「正確さ」がどのように促進されていくのか、中間言語の体系がどのように再構成されていくかを、今後、実証的に示す研究を進めていきたいと考えている。

**研究会紹介（関西支部）**

**ライティング指導研究会**

代表 久留友紀子・愛知医科大学

ライティング指導研究会は、「大学における英文のライティング指導の在り方と実践的指導法について考える」という基本方針に基づいて活動を続け、現在第11次プロジェクトを数えるに至っております。現在は16人のメンバーが参加しており、例会はおおよそ年6回（4月、7月、10月、12月、2月、3月）を、主に同志社大学今出川キャンパスで開催しています。また当研究会ではこれまで、それぞれのプロジェクトの成果とメンバー個人の研究成果をまとめてライティング指導研究会の紀要を出版してきました。紀要は2009年には第8号となり、第8号出版の際には、より多く

の人たちに私たちの研究成果を読んでもらうことができると願ってISSNを取得し、国立国会図書館に保存されることとなりました。

ライティングという領域は、残念ながら、いわゆる話す、聞く、読む、書く、の4技能のうちで実践も研究も他に比べて遅れていると言われます。最近ではL2ライティングに関する研究は顕著に増加していますし、大学では4技能統合型の授業やTOEFLなどの試験準備の授業でライティング指導が求められるようになってきているものの、外国語学部などを除けば現在でもライティングを指導する機会が十分でなく、ライティング教育の遅れは否めないように感じます。しかし同時に、学業においてであれ専門的な職業においてであれ英語が必要となる場合、不自由な思いのする外国語ながらその知識と技量を最大に生かしていかにか効果的に書けるかが成功の大きなカギの一つとなるのは疑う余地のないことだと思われまます。当研究会では、この重要なライティング力を向上させるためにどのような指導をすることができるかを様々な角度から研究しています。

ここ数年の活動では、第8次プロジェクト(2003-04年度)として近年注目を浴びているポートフォリオを取り上げ、ライティング指導におけるポートフォリオ・アセスメントについて文献研究を行うのと合わせて、メンバーの持つライティングの授業でポートフォリオを試験的に導入しました。この成果については、2005年6月のJACET関西支部春期大会(於和歌山大学)においてワークショップを開催し、日本のライティング指導の現場でポートフォリオを取り入れることの可能性を、2つの実践報告を交えて検討した次第です。

ポートフォリオに関するプロジェクトに引き続き行ったのが、ライティング・ルーブリック(作文評価表)の作成です。学習者が自分の考えを自分の言葉でそれぞれに書くこととなるライティングにおいては、評価の問題はとりわけて難しい問題の一つです。加えて、ライティングの経験が少ない日本人大学生英語学習者が書くものにはどうしても既存のルーブリックではうまく扱えない部分があることから、研究会のプロジェクトとして、日本人大学生を対象とした、誰もが授業で使いやすい評価表を目指してその作成を試みることとなりました。このパイロット・ルーブリックとその

作成過程は研究ノートとして2007年のJACET JOURNAL No.45に掲載されております。

さて現在の第11次プロジェクトですが、昨年度から「ライティング指導ハンドブック」を作成するという大きな目標に向かって研究を進めています。このハンドブックでは、日本の大学で少しでも多くのライティングの指導がより効果的に行われる手助けとなることを願って、日本の大学で日本人大学生にライティングを指導する際に考える必要がある問題—コース・デザイン、授業計画、学習者のニーズやレベル、ライティングのトピックと課題、教科書あるいはその他の教材、指導上のテクニック、フィードバックと評価など—について、今までの当研究会での実践や研究から得られた知見とメンバーが行ってきたライティング指導の経験をまとめたいと考えております。昨年度はメンバーの共通基盤をつくる目的も兼ねてライティング指導に関する概説書の輪読を行いました。今年度はメンバーが担当部分を選んで研究成果をまとめ紀要第9号として発行する予定です。

プロジェクトとしては当然ライティングが中心となるのですが、個別の研究ではライティングとリーディングあるいはリスニングとの関係についてなど幅広い視野からも研究が進められています。また、昨年度は初めての試みとして、同じく関西支部のリーディング研究会と合同例会を開きました。リーディングとライティングという、関わりが深い異なる2つの観点から活発な意見交換がなされ有意義な例会となりました。

嬉しいことに当研究会ではこの数年で新たなメンバーを数人迎え、研究会当初のプロジェクトを知る方から若い方まで、和気あいあいと楽しく活発な議論を展開しています。当研究会に関心のある方はぜひ一度、関西支部研究会の紹介ページ(<http://www.jacet-kansai.org/kenkyukai.html>)を訪れてみてください。研究会HP(<http://kcvweb.bai.ne.jp/jorvik/>)へのリンクもあります。

## 本部便り

代表幹事 尾関直子(明治大学)

代表幹事は総務委員会の一員でもあるが、最近総務担当理事の寺内一氏、副代表幹事の渡辺敦子氏、湯沢伸夫氏と運営会議が開かれる前にワーキンググループの会議を定期的に行っている。そこ

では、今後のJACETの学術活動を活発にするために何をすればいいか、会員（社員）のみなさんと professional development をする機会をより多く分かち合える場であるためにどのようにすればよいか、開かれた、会員に公平な学会であるためには、どのような取り決めが必要になるであろうかということ話し合っている。今まで話し合ってきたことは、徐々に形となり、実現されていくと思うので、みなさん楽しみにしてください。

## 社団法人 大学英語教育学会 平成22年度第1回社員総会議事録

日 時：平成22年6月20日（日）  
15時00分～15時50分  
会議場：京都府京都市上京区今出川通寺町西入  
同志社女子大学今出川キャンパス純正館  
105教室  
総社員数：132名  
出席社員数：101名  
内訳 本人出席 18名（出席者名簿別添）  
委任状出席 83名

（委任状出席者名簿別添）

よって『定款』第32条の規定の定足数  
以上を充足

陪席者：役員24名（うち委任状出席者5名）（役  
員名簿別添）、（事務局長）荒川明子

議 長：渡辺敦子

副議長：湯澤伸夫、富田かおる

議事録署名人：湯澤伸夫、富田かおる

### I. 開会

尾関直子代表幹事より、定款所定の定足数を満たした旨の報告があり、社員総会の開会が宣言された。

### II. 議長選出

尾関直子代表幹事が議長の選出について諮ったところ、議長に渡辺敦子氏、副議長に湯澤伸夫氏、富田かおる氏が選出された。

### III. 議事録署名人選出

議長が議案審議に先立ち、議長の他の議事録署名人2名について、湯澤伸夫氏と富田かおる氏の

廣 告



両名を指名したい旨を述べたところ、異議なく承認された。

#### IV. 会長挨拶

神保尚武会長より、任期中の2年間全力を尽くしたいという挨拶があり、その後、重任、新任の副会長や理事の紹介があった。

#### V. 議事

##### 第1号議案 平成21年度 事業報告・収支決算

###### 1. 平成21年度 事業報告

寺内一総務担当理事より説明があり、下記1～5号事業がすべて承認された。

- (1) 1号事業 全国大会の開催、サマーセミナーの開催、春季セミナーの開催
- (2) 2号事業 『紀要』の刊行、『JACET通信』の刊行、「大学英語教育学大系」全13巻（予定）の刊行および準備
- (3) 3号事業 大学英語教育学会賞の表彰（学術賞・新人賞・実践賞）、関係学会団体への派遣（RELC, KATE, IATEFL, ALAK, ETA-ROC, MELTA, AILA, PKETA）
- (4) 4号事業 全国レベルの調査研究（大学英語教育に関する実態調査）、専門分野別の研究会活動
- (5) 5号事業 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業（諸会議の開催、各選挙の実施）

###### 2. 平成21年度決算・監査・会員異動

見上晃財務担当理事より、平成21年度の決算報告があり、承認された。続いて、見上晃財務担当理事より、椿忠男、矢田裕士両監事に代わり監査報告があり、承認された。

寺内一総務担当理事より、平成21年度会員異動状況について報告があり、承認された。

##### 第2号議案 50周年関連事業

###### 1. 寄付事業

見上晃財務担当理事より、寄付の必要性と目標額（400万円）について説明があり、理事会で承認された寄付依頼文面の一部変更も含め、承認された。

##### 第3号議案 その他

###### 1. 社員欠員補充の件

寺内一総務担当理事より、三好重仁氏逝去に伴い社員に欠員が1名生じたため、『細則』第11条に基づき、根岸純子氏を社員とすることが説明され、承認された。同氏の任期は前任者の残任期間（平成22年6月20日～平成24年3月31日）。

###### 2. 社団法人大学英語教育学会の今後のあり方

寺内一総務担当理事より、『公益法人改革三法』（平成18年5月成立、平成20年12月施行）との関係から、社団法人大学英語教育学会が平成25年12月1日までに公益社団法人への移行認定申請、または、一般社団法人への移行認可申請の選択を迫られているため、本日の理事会から検討に入り、9月の全国大会の会員総会までにある程度の方針を出すことが説明され、承認された。

###### 3. 「慶弔規定」の変更について

寺内一総務担当理事より、「慶弔規定」に監事と社員を加えたとの報告があり、承認された。

#### VI. 閉会

以上をもって社団法人大学英語教育学会社員総会の議事を終了したので、議長は第2回社員総会の日程（2011年3月19日、早稲田大学）を伝え、閉会を宣した。

平成22年6月20日

社団法人大学英語教育学会

平成22年度第1回社員総会

議長 渡辺敦子  
議事録署名人 湯澤伸夫、富田かおる

\*\*\*\*\*

#### 平成21年度事業状況報告書

定款第5条第1項の（1）から（5）に掲げる平成21年度の事業計画実施概要の報告は下記の通りです。

記

##### 1号事業報告：

###### (1) 全国大会の開催

平成21年9月4日から6日まで北海学園大学（北海道）において、「国際交流「新」時代における大学英語教育カリキュラム刷新」をテーマに第48回全国大会を開催した。参加者716人。基調講演3件、特別講演1件、海外提携学会代表等による招待講演6件、シンポジウム16件、ポスター

セッション7件、ワークショップ1件、賛助会員発表9件、研究発表34件、実践報告24件、事例研究10件等、盛会な大会であった。特に今大会では「大学英語カリキュラムの刷新」を広く社会へ発信するための市民交流イベントが行われた(事例研究4件、ポスターセッション52件、参加者は一般参加者を併せて260名)。

会員には、11月に刊行した『JACET通信大会特集号』にて全体報告と、基調講演、全体シンポジウム等に関する報告を行い、全国大会で披露された研究成果や知見を広く知らしめ、研究者の研究活動推進に資するものとした。

## (2) サマーセミナーの開催

平成21年8月18日から21日に、国立大学法人等共同利用施設草津セミナーハウスにおいて、「英文法この100年：English Grammar 1900-2000: How the language has changed in a hundred years」と「英語の丁寧表現：Politeness in English」をテーマとして第37回サマーセミナーを開催した。参加者48人。英国ランカスター大学からジェフリー・リーチ教授を招聘し、応用言語学の最新の研究について学び、また参加者による発表も行なわれ有意義な研鑽の場となった。講演と発表内容についての成果は『プロシーディングスNo.9』として刊行した。

## (3) 春季セミナーの開催

平成22年3月22日に、早稲田大学早稲田キャンパスにおいて、「学習者と教師の自律—自律的学習支援と教員研修—」をテーマとして、英語教育の実践研究セミナーを開催した。参加者89人。講演4件。パネルディスカッション1件。

## 2号事業報告：

### (1) 『紀要』の刊行

- ①平成21年10月20日に『JACET Journal』49号を刊行。掲載論文5件。
- ②平成22年3月30日に『JACET Journal』50号を刊行。掲載論文5件。海外著名研究者からの特別寄稿記事3件。

会員及び英語教育関係者等へ送付した。海外提携学会等へも送付し、日本の英語教育研究の最新情報を発信した。

### (2) 『JACET通信』の刊行

- ①平成21年7月1日に『JACET通信』169号(日本語、印刷版およびWeb版)を刊行。
- ②平成21年10月1日に『JACET通信』170号(英

語、Web版)を刊行。

- ③平成21年11月1日に『JACET通信』171号(大会特集号)(日本語、印刷版およびWeb版)を刊行。

- ④平成21年12月1日に『JACET通信』172号(日本語、印刷版およびWeb版)を刊行。

- ⑤平成22年3月1日に『JACET通信』173号(英語、Web版)を刊行。

以上、合計5回の通信の刊行を行い、大学英語教育関連の情報発信に寄与した。

### (3) 「大学英語教育学大系」全13巻(予定)の刊行および準備

平成22年2月1日に第1巻『大学英語教育学その方向性と諸分野』刊行。大学英語教育学の研究の現状や問題点について広く考察し、将来の研究の方向性を展望し、併せて、全13巻の概要を示した。

平成22年3月15日に第10巻『リーディングとライティングの理論と実践』刊行。リーディングとライティングの近年の理論的研究をまとめ、その研究成果をリーディングとライティングの教育に応用した。

両巻を大学英語教育に関する団体等へ献本した。さらに、平成22年度に7巻、23年度に4巻刊行予定。50周年記念刊行事業準備委員会が4回開催され、各巻の内容構成の検討及び執筆者の選定等が行なわれた。

## 3号事業報告：

- (1) 大学英語教育学会賞の表彰(学術賞・新人賞・実践賞)

平成21年9月4日の全国大会時に、大学英語教育学会賞の学術賞が、大谷泰照氏著書『日本人にとって英語とは何か—異文化理解のあり方を問う—』(大修館、2007)に、実践賞が、中野美知子氏の「早稲田大学における革新的英語教育プログラム、及び外国諸大学連携によるIT英語教育諸活動の開発、導入、実践」にそれぞれ授与された。

### (2) 関係学術団体への派遣

- ①RELC (Regional Language Centre)

平成21年4月20日から22日にシンガポールで開催された第44回RELC国際セミナーに本学会より学会代表者を1名派遣し、研究発表を行なった。大会参加の成果と報告は学会ホームページに掲載。

- ②KATE (The Korea Association of Teachers of

English)

平成21年7月3日から4日に韓国ソウル市で開催されたKATE 2009 International Conferenceに本学会より学会代表者を1名派遣して、研究発表を行ない、学術交流及び情報交換を行なった。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

③ IATEFL (International Association of Teachers of English as a Foreign Language)

平成21年3月31日から4月4日に英国カーディフで開催された43rd Annual International IATEFL Conference and Exhibitionに本学会より学会代表者を1名派遣して学術交流および情報交換を行なった。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

④ ALAK (The Applied Linguistics Association of Korea)

平成21年12月5日に韓国ソウルにおいて開催されたALAK 2009 International Conferenceにおいて本学会より学会代表者を1名派遣し、研究発表を行い、学術交流を実施した。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

⑤ ETA-ROC

平成21年11月13日から15日に台湾の台北市 (Chien Tan Overseas Youth Activity Center) で開催されたThe 18th International Symposium and Book Fair on English Teachingに本学会代表者1名を派遣して、研究発表を行い、学術交流を実施した。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

⑥ MELTA (Malaysian English Language Teaching Association)

平成21年6月11日から13日にマレーシアで開催された第18回MELTA国際大会に本学会の代表者1名を派遣し、研究発表を行い、学術交流を実施した。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

⑦ AILA (国際応用言語学会)

平成21年6月17日にアイルランドのリムリック大学で開催されたビジネスミーティングに本学会より代表者1名を派遣した (JACETの代表者として会議出席)。報告書は理事会に提出。

⑧ PKETA (Pan-Korea English Teachers Association)

平成21年10月10日に韓国釜山国立大学校で開催されたPKETA大会に本学会代表者2名を派遣し、研究発表を行い、教育・学術交流を深めた。

成果と報告はニューズレターに掲載。

4号事業報告：

(1) 全国レベルの調査研究

① 大学英語教育に関する実態調査

従来の「学部」という範疇ばかりでなく、英語を実際に使用して国際社会で通用する人材育成のために高等教育機関がどのように取り組んでいるかを調査報告することを目的とした実態調査を行うために、勉強会および4回の会議で、調査方法、項目等の検討、調査システムの整備を行い、次年度の本調査に備えた。

(2) 専門分野別の研究会活動

本学会には現在43研究会があり、各研究会はそれぞれの分野の調査研究を基盤として、会員の資質向上、書籍出版、教材開発、紀要等での論文発表などの活動を行なっている。そして、研究会担当委員会はそれらの各研究会の活動を支援している。その結果、本活動が会員・非会員相互の専門知識と技術の向上及び大学英語教育の発展にも寄与している。

5号事業報告：

(1) 諸会議の開催

① 平成21年6月21日 平成21年度第1回定例理事会の開催

② 平成21年6月21日 平成21年度第1回定例社員総会の開催

③ 平成21年9月3日 臨時理事会

④ 平成22年3月21日 平成21年度第2回定例理事会の開催

⑤ 平成22年3月21日 平成21年度第2回定例社員総会を開催

⑥ 定例運営会議の開催。毎月1回開催。年間合計12回開催。

⑦ その他の臨時会議多数。

(2) 各選挙の実施

『定款』の定めにより、平成22年度からの新体制準備のための会長選挙、支部長選挙、社員の選出を行った。

年度当初から社団法人の申請計画に沿って実施されたため、大きなズレを生じることなくほぼ年度計画通りに実施することが出来た。

以上をもってご報告と致します。

社団法人 大学英語教育学会第2期  
平成21年度収支計算書  
(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 基本財産運用収入				
基本財産運用収入	300,000	40,295	259,705	
② 会費収入				
会費収入	24,499,000	23,195,000	1,304,000	
③ 大会収入				
大会参加費収入	5,785,000	4,435,000	1,350,000	
大会展示料収入	2,100,000	1,676,948	423,052	
広告料収入	1,070,000	1,090,000	△ 20,000	
④ 事業収入				
印税・原稿料収入	2,500,000	2,487,758	12,242	
書籍販売収入	600,000	258,250	341,750	
⑤ 基本財産収入				
基本財産寄附収入	0	0	0	
⑥ 運用財産収入				
運用財産寄附収入	0	0	0	
寄附金収入	150,000	660,000	△ 510,000	
⑦ 雑収入				
受取利息収入	9,000	34,294	△ 25,294	
その他	320,000	306,182	13,818	
事業活動収入計 (A)	37,333,000	34,183,727	3,149,273	
2 事業活動支出				
[1] 事業費支出 (小計)	26,118,600	22,470,502	3,648,098	
(1) 大会セミナー等事業				
大会運営費	6,007,100	4,176,805	1,830,295	
セミナー費	1,300,000	1,104,226	195,774	
通信費	519,600	594,426	△ 74,826	
印刷費	1,742,000	1,717,223	24,777	
出張費	300,000	237,820	62,180	
(2) 出版物刊行事業				
50周年記念刊行事業費	2,720,000	2,707,513	12,487	
通信費	2,224,200	2,341,568	△ 117,368	
印刷費	4,817,800	4,597,083	220,717	
(3) 表彰協力事業				
国際交流費	750,000	512,791	237,209	
JACET賞	208,500	94,602	113,898	
AILA加盟料	153,000	141,115	11,885	
(4) 調査研究事業				
特別委員会費	500,000	319,780	180,220	
研究活動費	860,000	684,686	175,314	
(5) その他事業				
会議費	2,789,500	1,954,870	834,630	
通信費	926,900	1,059,279	△ 132,379	
渉外費	300,000	226,715	73,285	
[2] 管理費支出 (小計)	16,033,340	15,074,305	959,035	
人件費	8,999,000	8,956,833	42,167	
社会保険料	570,000	426,183	143,817	
租税公課	350,000	70,000	280,000	
事務所経費	4,446,340	4,180,558	265,782	
支払手数料	1,600,000	1,426,000	174,000	
雑費	68,000	14,731	53,269	
事業活動支出計 (B)	42,151,940	37,544,807	4,607,133	
事業活動収支差額	△ 4,818,940	△ 3,361,080	△ 1,457,860	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入				
特定預金取崩収入	3,870,000	3,870,000	0	
② 運用財産繰入収入	1,200,000	1,200,000	0	
投資活動収入計 (C)	5,070,000	5,070,000	0	
2 投資活動支出				
① 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	200,000	200,000	0	
特定預金取得支出	0	0	0	
② 基本財産繰入支出	0	0	0	
③ 運用財産繰入支出	0	0	0	
投資活動支出計 (D)	200,000	200,000	0	
投資活動収支差額	4,870,000	4,870,000	0	
III 予備費支出 (E)	30,000	0	30,000	
当期収支差額 (A)-(B)+(C)-(D)-(E)	21,060	1,508,920	△ 1,487,860	
前期繰越収支差額	3,211,973	3,211,973	0	
次期繰越収支差額	3,233,033	4,720,893	△ 1,487,860	

財 産 目 録  
平成 22 年 3 月 31 日現在

社団法人 大学英語教育学会


(単位：円)

勘 定 科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
(1) 現金預金			
現金	328,664		
普通預金	6,439,457		
	現金預金小計	6,768,121	
(2) その他の流動資産			
未収金	43,020		
書籍販売未収金	1,733,100		
たな卸資産	1,776,120		
	その他流動資産合計	1,776,120	
	流動資産合計		8,544,241
2 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000		
	基本財産合計	20,000,000	
(2) 運用財産			
定期預金	5,300,000		
	基本財産合計	5,300,000	
(3) 特定資産			
退職給与引当預金	400,000		
特別委員会等積立預金	18,577,918		
	特定資産資産合計	18,977,918	
(4) その他固定資産			
備品	460,064		
TV 会議システム他	460,064		
	その他固定資産合計	460,064	
	固定資産合計		44,737,982
	資 産 合 計		53,282,223
II 負債の部			
1 流動負債			
未払費用	1,951,891		
印刷代他			
預り金	68,357		
源泉所得税、社会保険料			
未払法人税等	70,000		
	流動負債合計		2,090,248
	負 債 合 計		2,090,248
	正 味 財 産		51,191,975

会計監査

2009 年度の社団法人大学英語教育学会（第 2 期）会計収支決算につき  
帳簿その他関係書類を監査しましたところ正確、適正であると認めます。

2010 年 5 月 22 日

監事 矢田 裕士 

監事 橋 沢 男 

## 支部便り

### 〈九州・沖縄支部〉

2010年度第1回九州・沖縄支部紀要編集委員会

日時：6月12日（土）11:00～13:00

会場：西南学院大学西南コミュニティセンター2階会議室

2010年度第2回九州・沖縄支部役員会

日時：6月12日（土）14:00～17:00

会場：西南学院大学西南コミュニティセンター2階会議室

第24回大学英語教育学会九州・沖縄支部研究大会

日時：7月3日（土）9:15～17:15

会場：西南学院大学1号館

大会テーマ：「多様化する英語学力と大学英語教育」

2010年度第2回九州・沖縄支部紀要編集委員会

日時：7月31日（土）14:00～17:00

会場：西南学院大学西南コミュニティセンター2階会議室

第4回JACET第50回記念大会地元実行委員会

日時：8月27日（土）16:00～17:00

会場：西南学院大学学術研究所大会議室

第101回東アジア英語教育研究会

日時：9月18日（土）15:00～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

発表1：伊藤愛美（西南学院大文学部英語専攻4年生）

題目：日本人英語学習者による tough 構文の容認性判断

発表2：伊藤 彰浩（西南学院大）

題目：日本人英語学習者の文理解における主格・目的格のアシンメトリー：関係節の理論をwh疑問文の研究へ応用する

第102回東アジア英語教育研究会（予定）

日時：10月16日（土）15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

発表者1：ペニンントン和雅子、鳥越千絵、雪丸尚美（西南学院大言語教育センター）

題目：学習者の英語力・学習態度自己分析－CEFRに準拠した調査の可能性と問題点

発表者2：Joseph Myall（西南学院大言語教育センター）

題目：Patterns of Vocabulary Acquisition

（伊藤健一・北九州市立大学）

### 〈中国・四国支部〉

1. 2010年度広島・山口・島根ブロック研究会

日時：9月25日（土）

場所：安田女子大学

(A) ワークショップ

「Moodleを用いたワークショップ」松岡博信（安田女子大）

(B) 研究発表

(1) 「Moodleを活用した医学英語教育」岩田淳、玉木祐子、ジョン・クレイトン（島根大、Waikato Institute of Technology）

(2) 「短期大学保育科における基礎教育科目「英語コミュニケーション」の実践報告—授業満足度を高める工夫—」田辺尚子（安田女子大）

2. 2010年度支部役員会

日時：9月25日（土）12:00-13:00

場所：安田女子大学

3. 2010年度岡山・鳥取ブロック研究会

日時：10月16日（土）

場所：就実大学

(A) 研究発表

(1) Moodle: Enhancing Classroom Management and Teaching Makoto McLean (Part-time lecturer at Yasuda Women's Univ. and Hiroshima City Univ.)

(2) 「ディクテーションの誤答分析による単語リストを使用した発話単語認知の向上についての研究」小山尚史（岡山大）

(3) 「学習意欲の向上に貢献する教室活動—考慮すべき3つの心理的欲求—」岩中貴裕（香川大）

(4) 「英語教科書の量的分析」鳥越秀知（香川高専）

(B) 講演

「英語と私」中村浩路（元岡山商科大）

#### 4. 2010年度四国ブロック研究会

日時：11月27日（土）

場所：松山大学

#### 5. OPP研究会第2回イベント

日時（予定）：12月12日あるいは12月19日

場所（予定）：広島

（鳥越秀知・香川高専）

### 〈関西支部〉

#### 1. 支部大会： 関西支部秋季大会

テーマ：

「今、求められる大学英語教育における授業の方向性」

“Future Directions for Classes in University English Education”

日時：2010（平成22）年11月27日（土）

場所：関西学院大学・上ヶ原キャンパス（兵庫）

##### (1) ワークショップ

児童英語教育における落語の可能性

池亀葉子（こども英語落語協会）

竹田里香（こども英語落語協会）

##### (2) 研究発表1

小学校英語指導者のための効果的な研修内容に関する実証的研究

松永舞（近畿大）

##### (3) 研究発表2

順序検索法とは何か：『コウビルド英英辞典（改訂第5版）』の場合

秦正哲（兵庫医療大）

##### (4) 研究発表3

Evaluating the Reliability and Validity of a Test of Productive Vocabulary（産出語彙に関する一テストの妥当性と有効性の検証）

CLENTON, Jon（ジヨン・クレントン）（大阪大）

##### (5) 研究発表4

Translationから見る英語と日本語の相違性と教育的応用

仁科恭徳（立命館大・非）

##### (7) 研究発表5

Discourse: Reported Speech, Phatic Questions, and Perfect Tenses（ディスコース：間接話法・

交話的疑問・完了時制）

CAMPBELL-LARSEN, John（ジョン・キャンベラーセン）（桃山学院大）

##### (8) 研究発表6

日本人は消極的だから英語が話せないのか：日・英語のインタラクション・スタイル分析

大谷麻美（京都女子大）

##### (9) 実践報告1

自律・自立学習に導くための辞書指導と教材開発について

山田正義（関西大・非）

##### (10) 実践報告2

Unified Testing in a University English Oral Program（大学一年生のオーラルイングリッシュ共通テストの実施報告）

RAMIREZ, Carlos（カルロス・ラミレズ）（近畿大）

NITTA, Kaori（新田香織）（近畿大）

##### (11) 実践報告3

大学一年生を対象として「Criterion」を利用したライティングテスト実践報告

西村香奈絵（近畿大）

石井隆之（近畿大）

下絵津子（近畿大）

##### (12) 実践報告4

Benefits of Extensive Reading: A Case Study of Non-English Major Students（多読の効果：英語非専攻学生におけるケーススタディ）

YOSHIDA, Hiroko（吉田弘子）（大阪経済大）

##### (13) 実践報告5

再履修クラスにおける多読の実践とその効果

高瀬敦子（近畿大）

大槻きょう子（近畿大・非）

##### (14) 実践報告6

大学におけるリメディアル教育への多角的アプローチ

山岡華菜子（大阪大・大学院生）

##### (15) 実践報告7

文学教材を活用した平和教育の試み—『アンネの日記』と『杉原物語』を使って

藤岡千伊奈（関西大・非）

##### (16) 全体シンポジウム

「今、求められる大学英語授業とは？—授業実践の取組から」

モデレーター：吉田晴世（大阪教育大）

演題とパネリスト：

「英語を基軸とした二言語同時学習」  
小野隆啓（京都外国語大）  
「あらゆるレベルの学生を伸ばす多読授業」  
高瀬敦子（近畿大）  
「教師と学生の共育を目指したポートフォリオの活用—自律と自主性を高めるために—」  
村上裕美（関西外国語大短期大学部）  
「The Effects of Team Teaching for an Introductory Graduate Course on Reading」  
ブルース・マルコム（大阪教育大）  
吉田晴世（大阪教育大）

## 2. 講演会

### 第1回支部講演会

日時：2010年7月24日（土）15:30～17:30  
海外の外国語教育研究会企画によるシンポジウム  
「ヨーロッパにおける言語政策の最近の動向」  
“Recent Developments of Language Policy in Europe”  
場所：キャンパスプラザ京都（京都）  
司会：河原俊昭（京都光華女子大）  
講師：林桂子（広島女学院大）  
杉谷眞佐子（関西大）  
参加者：54名

### 第2回支部講演会

日時：2010年10月2日（土）15:30～17:30  
教材開発研究会企画によるシンポジウム  
「『自律学習』を目指した教材開発研究」  
A Study of Material Development on  
“Autonomous Learning”  
場所：神戸国際会館（神戸）  
司会：岡本由紀子（関西外国語大・非）  
講師：仲川浩世（京都女子大・非）  
仁科恭徳（立命館大・非）  
岡本由紀子（関西外国語大・非）  
参加者：27名

### 第3回支部講演会（予定）

日時：2011年3月12日（土）15:30～17:30  
場所：関西学院大学・大阪梅田キャンパス（大阪）  
講師と演題：  
（1）トム・ガリー（東京大大学院総合文化研究科  
言語情報科学専攻・教養学部准教授／ALESSプロ  
グラム マネージング・ディレクター）

演題「東京大学教養学部における理系英語プログラムの試み」  
（2）田地野彰（京都大学高等教育研究開発推進センター大学院 人間・環境学研究科 外国語教育論講座教授）  
演題「学術研究に資する英語教育を目指して—京都大学の取り組み—」

## 3. ニュースレター

52号 2010年4月1日 発行  
53号 2010年5月19日 発行  
54号 2010年8月15日 発行  
55号 2010年10月27日 発行  
56号 2011年1月31日 発行予定

## 4. 関西支部紀要

『JACET Kansai Journal』13号 2011年3月31日  
刊行予定  
(生馬裕子・大阪教育大学)

## 〈中部支部〉

### 1. 役員会

#### 第3回役員会

日時：2010年6月6日（日）12:05～12:45  
場所：中京大学 センタービル7階 07D  
議題：  
1. 2010年度中部支部人事・事業計画・予算について（報告）  
2. 2011年度中部支部人事案・事業計画案・予算案について  
3. 2010年度支部紀要予算と出版について、他

#### 第4回役員会

日時：2010年7月10日（土）14:00～15:30  
場所：中京大学 センタービル7階 07D  
議題：  
1. 第27回中部支部大会について（報告と総括）  
2. 2010年度講演会について  
3. 2010年度定例研究会について、他

#### 第5回役員会

日時：2010年10月16日（土）13:00～14:45  
場所：南山短期大学 11号教室  
議題：  
1. 2011年度中部支部事業計画案・予算案の修正



について

2. 2012年度全国大会について
3. 2011年度中部支部大会について、他

#### 第6回役員会

日時：2010年11月20日（土）13:00～14:30

場所：中京大学 センタービル7階07D

議題：

1. 2011年度中部支部大会について
2. 2012年度全国大会について
3. 2010年度定例研究会について、他

#### 第7回役員会

日程：2010年12月18日（土）（予定）

場所：中京大学 センタービル7階07D

## 2. 講演会

日時：2010年10月16日（土）15:00～16:30

場所：南山短期大学 No.1教室

講師：近江誠（南山短期大）

演題：「英会話を超える道一神なる道化師トリックスターのこと」

## 3. 定例研究会

(1) 12月定例研究会

日程：2010年12月18日（土）

場所：中京大学 センタービル

講演講師：佐々木みゆき（名古屋学院大）

研究会発表：ライティング研究会

その他、個人研究発表2件

（定例研究会終了後、支部忘年会開催予定）

(2) 2月定例研究会

日程：2011年2月26日（土）

場所：中部大学名古屋キャンパス

研究会発表：ESP研究会

その他、講演・個人研究発表を予定

## 4. その他

(1) 『中部支部紀要』第8号の発行（2010年12月20日）

(2) 中部支部ニューズレター25号の発行（2010年12月20日）

(3) 第28回（2011年度）中部支部大会の開催  
日程：6月4日（土）

会場：名城大学

特別講演講師：投野由紀夫（東京外国語大大学院）  
（石川有香・名古屋工業大学）

## 〈関東支部〉

### 1. 支部総会日程

第二回：12月18日（2011年度事業計画について）

場所：早稲田大学

### 2. 2010年度支部合同会議日程予定

第四回10月16日（土）（場所：早稲田大学）

第五回11月20日（土）（場所：早稲田大学）

第七回2011年1月15日（土）（場所：早稲田大学）

第八回2月19日（土）（場所：早稲田大学）

第九回3月19日（土）（場所：早稲田大学）

### 3. 人事

新研究企画委員

半田純子氏、インガルスロット氏が新研究企画委員として承認された。

### 4. 研究会活動

月例研究会2010年度活動予定

(1) 2010年10月16日（土）17:00～18:00

場所：早稲田大学16号館 606教室

発表者：名城大学全学共通教育グループ（竹田真紀子・只木徹）

題目：「英語多読プログラムの実践」

(2) 2010年11月20日（土）17:00～18:00

場所：早稲田大学16号館 606教室

発表者：中川知佳子（東京経済大）

題目：「情報の再生と要約にみる英文理解」

(3) 2011年3月19日（土） 田中宏昌（明星大）

\*月例研究会の詳細は関東支部HP上に掲載されますので、そちらをご覧ください。

また、月例研究会では研究会の詳細をメールで知らせるシステムを立ち上げました。月例研究会からのお知らせ等をお受け取りになりたい方はJACET関東支部HPより登録を行ってください。詳しくはJACET関東支部のHPをご覧ください。  
（JACET関東支部URL：<http://www.jacet-kanto.org/>）

## 5. 2011年度 JACET 関東支部大会

2011年度 JACET 関東支部大会を6月に大東文化大学にて開催をいたします。研究発表の申し込み等に関しましては12月に発送されますお知らせをご覧ください。たくさんの研究発表のお申し込みをお待ちしております。

(上田倫史 目白大学)

### 〈東北支部〉

#### 1. 東北支部総会

以下の日程で東北支部総会が開催された。全国大会の開催に伴い、支部大会は実施されなかった。

日時：7月17日(土) 13:00～14:00

場所：エル・ソーラ仙台 研修室2

#### 2. 東北支部役員会

4月および7月東北支部役員会が以下のように実施された。

##### 4月東北支部役員会

日時：4月3日(土) 12:00～13:00

場所：仙台市民会館 第6会議室

審議事項は以下のとおりである。

1 2009年度支部決算・2010年度予算案について  
2009年度の会計報告が了承された。

2 2010年度東北支部役員・支部推薦社員について

3 2010年度支部活動計画について  
全国大会実行委員会・7月支部総会・11月例会・  
出版物の発行について

4 その他

2010年度の社員総会(6月・3月)について

##### 7月東北支部役員会および東北支部総会

日時：7月17日(土) 13:00～14:00

場所：エル・ソーラ仙台 研修室2

以下の点について審議された。

1 11月支部役員会・例会について

2 『JACET東北支部通信』No.37について

3 その他

2011年度の支部推薦の社員・役員について

2011年度の社員総会(6月・3月)について

2011年度の研究企画委員について

##### 10月東北支部役員会

日時：10月16日(土) 12:00～16:00

場所：エル・ソーラ仙台 研修室1

以下の点について審議された。

1 2011年度事業計画案について

2 「JACET東北支部通信 No.37」について

3 2010年9月の全国大会報告書について

4 JACET賞委員会について

5 その他 2010年11月支部例会の研究発表について

#### 3. 全国大会実行委員会

東北支部がJACET全国大会(於 宮城大学 大和キャンパス)を担当するにあたり、全国大会実行委員会およびJACET賞選考担当委員会が以下のように実施された。

全国大会実行委員会：第1回 4月3日(土)、第2回 4月24日(土)、第3回 7月3日(土)、第4回 7月17日(土)、第5回 8月8日(日)、第6回 8月31日(火)、第7回 9月6日(月)、全国大会期間9月7日(火)–9月9日(木)、第8回 10月16日(土)

JACET賞選考担当委員会：第2回 4月3日(土)、第3回 4月24日(土)、第4回 7月3日(土)、第5回 7月17日(土)、第6回 8月8日(日)、第7回 9月6日(月)

この場を借りて支部より大会運営委員長および運営委員の先生方、本部事務局のみなさま、大会にご参加くださいました先生方に御礼申し上げます。

#### 4. 支部の出版物について

TOHOKU TEFL (JACET東北支部紀要) Vol. 3と『JACET東北支部通信』No. 36が2010年3月に発行された。

#### 5. 今後の予定

支部例会および支部役員会を以下のように計画している。

##### 11月支部例会

日時：11月27日(土) 14:00～17:00

場所：仙台市民会館 〒980-0823 仙台市青葉区桜ヶ岡公園4番1号 022-262-4721

内容：講演・研究発表

##### 11月支部役員会

日時：11月27日(土) 12:00～14:00

場所：仙台市民会館

また、支部の発行物として、『JACET東北支部通信』No. 37を予定している。2011年3月に発行される予定である。なお、TOHOKU TEFL No.4の発行は2012年3月を予定している。

(岡崎久美子・仙台高専)

## 〈北海道支部〉

### 1. 大学英語教育学会 (JACET) 北海道支部 2010年度 (第24回) 大会

日時：2010年7月10日 (土) 12:30 ~ 17:30

場所：北海道大学

総会：報告事項；支部長報告、幹事報告、各種委員会報告、その他。議題；2011年度事業計画・予算案、2011年度人事案、その他。

研究発表1：「英語語彙学習を支援する電子ポートフォリオRetriever2の開発と汎用化に向けた検討」(田中洋也・北海道情報大)

研究発表2：「理想的言語自己と心的境界の薄さ—日本人英語学習者を対象にした研究」(菅原健太・北海道大院)

講演：「英語教員の研修と評価の新しい枠組みを求めて—教育委員会への調査結果に基づいて」(神保尚武・早稲田大)

シンポジウム：「大学英語教員が行う社会貢献とその実際」(司会：横山吉樹・北海道教育大、講師：萬谷隆一・北海道教育大、佐々木智之・北海道工業大、河合靖・北海道大)

### 2. 研究会の開催

#### a) 2010年度第2回研究会

日時：2010年11月7日 (日) 13:00 ~ 14:50

場所：藤女子大学

シンポジウム：「日本人教師が英語で英語を教えるということ」(司会兼講師：高井収・小樽商科大、講師：照山秀一・千歳市立青葉中学校、片桐徳昭・札幌開成高校、渡部道博・北海道立教育研究所) 終了後、役員会予定

#### b) 2010年度第3回研究会 (予定)

日時：2010年12月23日 (木・祝) 時間・場所は未定

研究発表者：JACET北海道支部CCR研究会 (予定) タイトルは未定

終了後、役員会予定

(尾田智彦・札幌大学)

## 第50回記念国際大会の 開催まであと8ヵ月

第50回記念国際大会組織委員会委員長・副会長

寺内 一

第50回記念国際大会が2011年8月31日から9月2日まで福岡の西南学院大学で開催されます。

9月の会員総会でもご報告しましたが、9月より第50回記念国際大会は準備委員会から組織委員会に文字通り組織の改変を行いました。組織委員会の陣容は以下の通りです (敬称略)。組織委員会委員長寺内一 (副会長)、副委員長兼大会委員長山内ひさ子 (九州・沖縄支部長)、副委員長山岸信義 (全国大会担当理事)、この三人体制のもと、大会実行委員会と大会運営委員会の各委員が組織委員会の委員となり、2011年8月に向けて準備を進めております。

また、「オープニングシンポジウム」の開催など第50回記念国際大会ならではのものも組織委員会は企画し実行に移して行く予定です。そうした企画の実行のために新たなメンバーが組織委員会委員として加わり、JACETをあげての大会となるように準備を重ねております。そのうちのいくつかを紹介いたします。

### ①ウェブ登録とプロシーディングの作成

今回は記念国際大会でもあり海外提携学会の会員でも発表申込みができるように工夫しました。具体的には、大会の応募はすべてウェブからとなり、かつ、300語の英文アブストラクトまたは800字の日本語アブストラクトで審査が行われることになりました (受付期間:2011年1月10日~2月10日)。さらに、審査に合格した全発表者 (一部を除く) には定められた様式と分量の『第50回記念国際大会プロシーディング』に掲載される論文を2011年5月31日までに提出していただきます。このプロシーディングは大会初日にCD版で参加者に配布されます。

### ②JACET 学生会員特別発表枠の設置

JACETの学生会員には、「JACET学生会員特別

発表枠」という枠を設け、発表日時と場所を固定し審査をし、その中で優秀な発表を表彰する予定です。この枠での発表はあくまでも希望制度であり、通常の研究発表ももちろんできますが、両方とも申し込むことはできません。

### ③その他の企画

「オープニングシンポジウムの開催」、「全研究会によるポスタープレゼンテーションの実施」、現在刊行が進んでいる「英語教育学大系の各巻主催のシンポジウムの開催」をはじめ、「JACETの50年の軌跡」や「今後の50年に向けて」といった企画を考えております。

詳しくはJACETウェブサイト (<http://www.jacet.org/>) から、「Go to JACET 50 Website」に進み、各種の情報をご覧ください。このウェブサイトを有効に利用しながら、様々な情報を提供していくこととなりますので、ご期待ください。

それでは皆様よろしくお祈り申し上げます。

#### 訃報

本学会会員 日比野日出雄先生(元評議員・元金蘭短期大学・関西支部)が2010年8月18日逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

#### 訃報

本学会会員 鈴木博先生(元副会長、理事、顧問・東京大学名誉教授・関東支部)が2010年11月2日逝去されました。享年76歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

#### 編集後記

短い秋が過ぎ、一挙に冬の到来となりそうな気配です。今号では、日本教育心理学会の南風原朝和先生に記事をご執筆いただきました。心より感謝申し上げます。また、北九州市立大学の伊藤健一先生、福岡県立大学の水野邦太郎先生、愛知医科大学の久留友紀子先生にも、お忙しい中記事をご執筆いただきました。厚く御礼申し上げます。

#### 編集委員

理事 尾関直子・明治大学  
委員長 大須賀直子・明治大学  
副委員長 田口悦男・大東文化大学  
遠藤雪枝・清泉女子大学  
Robert Hamilton・明治大学  
Maggie Lieb・明治大学

2010年12月1日発行

発行者 社団法人 大学英語教育学会 (JACET)  
代表者 神保 尚武  
発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町55  
電話 (03) 3268-9686  
FAX (03) 3268-9695  
<http://www.jacet.org/>  
印刷所 〒252-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12  
有限会社 タナカ企画  
電話 (046) 251-5775